

日本大学東北高等学校同窓会会報

桜 OUDA 采

NIHON UNIV. TOHOKU DOUSOU
SINCE 1955



昭和27年頃の体育館

発行日/2013年8月1日

発行/日本大学東北高等学校同窓会
郡山市田村町徳定字中河原1

編集/日本大学東北高等学校同窓会事務局
<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>

第11号



日本晴れ

阿部 正栄

日本晴れの日

手作りの柏餅を

田植えの畦で

みんなで食べた

風が吹き

山桜の花びらが

みんなの笑顔に踊った

日本晴れの日

パック詰め柏餅を

仮設住宅の押し入れの

仏前に供えた

ふつうでなくなった

日本晴れ

ふるさと

(国語科教諭 第十四期卒)

題号秘話

桜の枝がしだれるという「桜采(おうだ)」の命名とデザイン文字は、創刊当時の廣長威彦氏によるものです。そこには、「幹としての本部と枝としての支部がひとつとなって、互いに成長し続けよう。」との想いが込められていました…。(桜采8号より)

同窓の絆

日本大学東北高等学校 同窓会会長
第15期卒 柳 沼 正 人



NHKの大河ドラマ「八重の桜」によって福島県民の心が一つに繋がっていくのを感じます。また歴史ドラマの登場人物たちを通し、どんなに困難極まりない悲劇の中からも、恐れることなく勇気をもって立ち上がる精神力の強さを感じてやみません。この春も日本大学工学部のキャンパスを彩る桜が咲きました。母校のキャンパスはもはや郡山だけでなく、県内外の桜の名所にもなっております。

さて、本年も「桜朶(OU DA)」から、母校とOBの方々の「元気」を発信することが出来ました。今回の会報誌発行にあたり快くご協力くださったOB各位、そして関係各位に心より感謝申し上げます。

購読後に感想やご意見、また励ましのお言葉等を頂戴できれば幸いです。皆様からお寄せいただいた「声」を可能な限り反映させて発信してまいりたいと存じます。どうぞ、この会報誌「桜朶(OU DA)」を末永く愛していただき、同窓の絆として大きな輪として広がっていくことを夢見ながら、ご挨拶いたします。



三世代賞 受賞の様子

祝「桜朶」第11号発刊

日本大学東北高等学校 教頭
野 口 哲



同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。この度の同窓会会報誌「桜朶」第11号の発行をお祝い申し上げます。私は本校に赴任し38年目を迎え、教頭を拝命し6年目になります。赴任当時は、校名が日本大学東北工業高等学校でした。男子校ということもあり、やんちゃな生徒たちが多く、生活指導に苦労したのも今となっては良い思い出です。

その後、昭和53年に日本大学東北高等学校と校名を変更し、平成元年には男女共学となり、また普通科にIコースとIIコースを設置し、地域のニーズに対応した教育に努めてまいりました。創立以来、多くの有能な卒業生が巣立ち、県内

外はもとより国外でも活躍されていることは、大変嬉しく思っております。

現在の本校の状況を申し上げますと、在校生1362名(男子803名・女子559名)で38クラスからなっております。少子化が進む中で募集定員をほぼ満たす生徒が毎年入学しています。これは、同窓生の皆さんが作られた歴史や伝統と本校に対する応援が、地域社会の理解を得られたからこそと感謝しております。

教育方針は、日本大学の建学の精神を基に、「忠恕の心」「自主創造」「真剣力行」の3つを掲げ、学力だけでなく人間教育にも力を入れております。本校ならではの行事等も多数用意しております。

文化祭も毎年行われ、多くの来校者で賑わっています。同窓生の皆様にも足を運んで頂き、生徒たちの様子をご覧いただければ幸いです。

生徒に対する学校生活のアンケートを見ても、学校生活が楽しいと答える生徒が多く、平成24年度は3年間皆勤や精勤で卒業した生徒が263名と卒業生の6割近くになります。平成24年度の大学等合格状況は、日本大学215名、国公立大学51名、他私大260名、専門学校55名、就職13名となっています。東北大学3名、筑波大学3名をはじめ難関私大にも多くの合格を出しています。生徒数が多いだけ進路希望も多様ですが、それに応える学習指導や進路指導に当たった結果と思います。卒業生を対象とした進路に対するアンケート結果においても、進路に満足57%まあまあ満足35%となっています。

部活動関係では、陸上部・水泳部・硬式テニス部・柔道部が全国大会に出場いたしました。文化部においても書道部・吹奏楽部・理科部等が活躍し評価を受けております。

本校では平成18年より自己点検評価と生徒による授業評価を実施しています。また、3年ごとに有識者・同窓生・保護者などの方々へ外部評価をお願いしています。生徒による授業評価は保護者へ文書で報告しました。また、自己点検と外部評価の結果は、本校のHPに公表していますので、ご覧ください。これらを基に、本校での教育がさらに充実したものとなるように努力しております。

さて、最近の生徒たちを見ていますと、人との直接のかかわりを避け、ネットを通じた交わりしかできない生徒が増加しています。そのような中で生徒たちは、ネットでの情報に振り回され、正しい情報を得るのではなく、自分に都合の良い部分だけを切り取ってしまいがちです。その結果、他の意見を尊重しない、面と向かって議論し合うことを避ける等の傾向があるように感じています。最近話題のヘイト活動もその影響ではないでしょうか。情報社会のなかで、正しい判断ができる教育を社会・家庭・学校が一体となって行っていかなければならないと思っています。

新学習指導要領が高校でも開始され、ゆとり教育の見直しが行われました。本校でも新しい教育課程での授業が始まっております。日本の未来を担う生徒たちが健全に育ち、社会の一員として活躍できるよう教育に当たってまいりますので、同窓生の皆様には今後とも本校の教育にご協力ご支援くださいますようお願いいたします。

東北高校ありがとう

建築科 昭和31年卒 3期生
白石 五郎



私は田村郡文珠村の貧農の出身で、それも八番目のバッチ(末子)、父47才、母46才の時に生まれました。貧しいながらも大変甘やかされて育てられたようです。そんな少年が高校受験の時期になったある日、進路について話し合いが行われました。長兄は「大学に行くには普通科の田村高校を受験すべきである。」、すぐ上の兄貴(4男)は「五郎は勉強嫌いだから確実に大学に進学できる日大の付属東北工業高校を受験したほうがよい。」(兄貴は日大の農獣医学部卒で獣医師でありながら高校の教師である)、間に立つ少年(私)は自分の進路など何も考えておらず、その場の雰囲気合に合せ「うんうん」と頷き、ぼんやりと俺も大学まで進むのかと他人事のように思っています。長兄は過去に土木監督所に勤めていたことがあったので、「付属に進むのであれば、これからは国土復興が大切だ。そのためには道路、港湾、上下水道、住宅など生活関連の社会資本(インフラ)の整備が欠かせない。土木コースを選択したほうが良い。」との主張。「身長150cm足らずの、しかも痩せこけた小さな少年に土木屋なんて向くのだろうか」と、私は不安に駆られつつ、前述の二校を受験することが決まったことから、嫌々ながらも机に向かう日々が続きました。

結果、なんとか両校に合格したのですが、将来の方針が決まっていなかったため、長兄の推薦する田村高校に入学することになり、父と二人で玄関まで出たのです。ところが、急に郡山への思いが捨てきれず「ヤッパリ、色々考えたが付属に行かせて欲しい! 今度は一生懸命やるから!」と父に懇願しました。生まれて初めて自分で決めた進路です。父は怒りっぽい性格ですから、すぐに拳が飛んでくる筈でしたが、その時ばかりは快諾してくれて、それ以後怒られることは一度もないことから考えても、私の必死の懇願を見て、成人として認めてくれたものと思います。では何故付属を選んだのか。本当に恥ずかしい事ですが、実は叔父に連れられて付属(現母校)に行った帰り道、郡山駅前の浅草食堂の支那ソバを馳走になったことがありました。その余りの美味しさに、お替りをお願いし、二杯も平らげたのです。この件が忘れられず、邪道ではありますが、私は田村ではなく進むべき道を「郡山」と決めたのです。これを讀まれた皆さんはきっと笑うでしょうが、あの当時私の育った環境は、戦後処理も進み、朝鮮動乱の真下でありました。都会では軍需景気で上向いてはおりましたが、田舎ではまだ食べ物も不足しており、配給制度も残っているような時代です。小学校の同級生は南瓜ご飯で肌が黄色く、透き通って骨が見える様であり、厳しい環境の中、買い食いと言え、街の子から弁当と交換する形で手に入れた食券で、コッペパンを買う位だったのです。そんな中での支那ソバですから、それは想像を絶する美味しさだったのです。

自分の意志で決めたとはいえ、支那ソバに魅せられた少年の生活は一変しました。朝5時30分に起こされ、日の丸弁当を持たされて、日大付属高校に通うことになってしまったのです。朝の船引駅は貴婦人と呼ばれたC57(シゴナナ)が汽

笛を鳴らし、私達の到着を待っていてくれました。超満員の列車に押し込まれ鞆を胸に抱き、身を任せます。目を閉じると、動き出した蒸気機関車のリズムカルな響きは、上り坂は重さに耐えつつ喘ぎながら、そして下り坂は嬉々として語りかける様に聞こえてくるから不思議でした。東北本線安積永盛駅からは「ガンタラバシ」を渡り、アカシヤ林を過ぎて、学び舎までの片道約3時間の汽車通学が始まったのです。

建設科の教室に入ると、そこには活気と騒音に満ちた、県内各地域から向学心に燃える個性豊かな少年達60人の顔がありました。土木コース(当時、他には県立平工業高校のみ)・建築コースに分かれていましたが、共通科目が多いせいから殆ど違和感はなく、慣れるのにそれほど時間はかかりませんでした。すぐに多くの友ができて、実に楽しく居心地の良い学園生活を送ったのを覚えています。確かあれは二年生の時であったかと思います。校歌が決まり録音することとなり、仲間と遊び心半分に応募しました。後から録音結果を聴いてみると、今泉徳男君の特徴ある声が旋律をリードし、よく纏まっていた素晴らしいレコードになっていました。今でも高校では使われているのでしょうか。一度聴いてみたいものです。

ところで、高校では多くの友人や恩師に恵まれたと思います。なかでも私にとって忘れられない恩師は森田光次先生です。今の私があるのも先生の御陰です。森田先生には英語を習いましたが、徳育に8割の時間を割く、生徒には厳し過ぎる先生であったかと思います。当時の生徒に訊いてみれば大多数が頷く筈です。私も往復ビンタを頂き、返しビンタで頭を下げ時、手の甲にバッチのネジが当たり先生に大怪我をさせてしまったことがありました。そんなある日、森田先生は私を呼び止め「お前は、勉強すればできるのに惜しい。努力する心積もりは無いのか?」とおっしゃるのです。なんだか自分が認められたようで非常に嬉しくなり、それ以後他人が森田先生を何と言おうと、大好きな先生になったのです。

高校卒業後は第二工学部へ進学し、なんとか卒業し、大手建設業に就職して一年チョット勤めました。しかし、いつもの通り飽きがきて我慢できず、退職願と自宅へのハガキも早々に、故郷に帰りました。さて、これからどうしようと悩んでいる時、急に教育実習でお世話になった母校と森田先生を思い出し、すぐに助けを求めました。「私を高校の先生にして下さい! 実務経験もあるので立派な教師になれると思います!」。先生曰わく「馬鹿者! 公務員試験があるからそれを受験しろ! 落ちたら、その時考える...」。先生の一言でまた私の苦しみが始まりました。見事(?)福島県職員に採用され、それから35年間勤務し、最後は県下水道公社理事長に就くことができました。その間、高校の先輩や後輩と相図り「県庁アカシヤ会」も結成し、酒席を囲みながらお互いの悩みを分ち合ことができました。今日の私があるのは恩師の先生や何かと色んな面で支えてくれた後輩のお蔭だと思っております。

二杯の支那ソバで東北高校を選んだことは、私にとって最高の選択だったのです。東北高校、ありがとうございます。感謝。



昭和30年6月1日録音のレコード原盤



「バイク & バイト」

建築科 昭和57年卒 29期生
立田 尚幸



この春の3月1日卒業式に、後援会会長として祝辞を述べる機会を得ました。壇上で日本大学校歌を歌いながら、自分の高校時代から工学部までお世話になったキャンパスでの様々な出来事が思い出され、少々目頭が熱くなりました。当時の日大東北高校は日本大学東北工業高等学校から「工業」の名が取れて、進学校へと大きく変わり始めた頃でした。

普通科は新設されたばかりで、女子生徒はまだ一人もおらず、工業科の生徒の数が圧倒的に多くて少々危険な雰囲気漂う男子校でした。

家業が建設業ということもあって、私は建築科に入学しました。担任はカマキリチョップで有名な新井健一郎先生です。色々な場面で、熱く、時には激しくご指導いただきました。建築科は1クラスだけのクラスメート62人と、今では想像すら出来ない環境での授業でした。物理の教員であった現教頭の野口先生に数学を学んだという不思議さ。まだ肌寒いゴールデンウィーク明けに、当時は屋外だったプールで水泳を学んだこと。集団で歩くとカラスの大群のように見える怖い黒ボタンの学生服。誤解を招く懼れがあるので詳しい内容は差し控えますが、先生方と生徒との熱く、時に過激に行われていたコミュニケーションなど、勉強以外での楽しい思い出は尽きません。

しかし、大きな問題がありました。それは往復20km弱の通学距離です。現在のように車での送迎など考えられない時代だったので、通学は基本的に自転車かバイクのみ。現在の高校ではバイク通学などあり得ませんが、当時は高校生のバイク通学が普通に許されており、アルバイトも基本的にはOKでした。私は入学して間もなく教習所に通い、中型二輪の免許を取得した後、晴れてバイク通学が始まりました。

ある日、日大通りで先生の車をバイクで追い越してしまい、体育教官室にて指導を受けたことがあります。坊主頭にするか、免許証を先生に預けるか、という究極の選択を迫られたことは今でも忘れられません。学食が混んでいたのも、目立たぬ様にウインドブレーカーを羽織って工学部の学食に行ってはみたものの、バイクの件での頭が丸坊主のため、ひときわ目立ってしまったことなど、記憶に残る出来事がたくさんあります。学校にはしばらく原付で通っていましたが、どうしても大きなバイクに乗りたくてアルバイトを始めました。親には大きなバイクは買い与えないと言われていましたので、資金は自力で得るしかありません。当時建築科には、製図の宿題が未提出の者は放課後の掃除をしなければならないという決まりがあったので、どうすれば時間をかけずに宿題を終えることができるかばかり考えていました。そこで、授業が終わるやいなや速攻帰宅し、宿題の図面も手早く済ますと、近所のスーパーで閉店までバイトをしました。時には宿題が間に合わない友達の図面を書いて代筆代を得るなど、勉強よりは「バイクとバイト」の日々を送っていたのです。それでも大型バイクに乗りたい衝動を抑えられず、先輩や友達に借りたバ

イクを転倒させたこともあります。それまでのバイト代が瞬時に修理費に消えることもありました。そんなある日、母親から、父親が自分は大学行けなかったけれど、せめて息子には大学に行って学んで欲しいと考えているようだと言われました。自分の中では「高校卒業後はどこかに就職し、何年か後に実家に戻って跡を継ぐだろう」くらいにしか思っていなかったもので、「大学進学」は私にとっては青天の霹靂(へきれき)。

しかも建築科から、ほとんど受験勉強もしない状態での無謀な方向転換。担任の先生からは工学部は厳しいと言われましたが、他に大学の知識もあるはずもなく、評定ギリギリで推薦が頂けたのを幸いに、「工学部」の受験に賭けました。

御陰様で日大統一テストは何とかクリアすることができました。思いもよらなかった進学という大きな転機を迎え、大学での貴重な学びを経て、今の仕事に至っております。

以上のように、少々波乱な展開の高校生活ではありましたが、私の多感な3年間を母校で成長させて頂いたことに、今は本当に感謝しています。

その間母校は、工業高校から普通科の進学校へと、また男子高校から男女共学校へと、さらに文武両道の進学校へと大きく変貌を遂げました。しかし、OBとして残念なことが一つあります。それは地域独特の公立(県立)校偏重のためか、母校のイメージが「すべり止め校」として定着していることです。あらゆる施設や設備が充実しており、高校生活を送るのに最高の環境であることを私は力強く発信して、もっと母校の良さを広めたいと思います。時々職員室に何うと、私と二人の息子達がお世話になった先生方が今でも在職されていて、昔話をしたり相談にのって頂いたりすることがあります。私学ならではの何よりも嬉しい点です。あれから30年以上の月日が経ちましたが、本当に素晴らしい学校に成長したと思います。

結びに、日本大学東北高等学校の益々の繁栄と在校生のご活躍、そして教職員の皆様のご健勝を心より祈念申し上げます。



当時の新井健一郎先生(第29期卒業アルバムより)



駐輪場

あの先生はいま・・・

平成25年6月7日

柔道一直線

遠藤 吉郎 先生



旅先の思い出の品について語られる先生

遠藤先生は昭和29年本校に赴任され、昭和63年で定年を迎えるまで、社会科の教員として教鞭を執る傍ら、柔道部顧問として本校の発展に尽力されました。

旧制中学より始めた柔道がきっかけで、本校の教員をするようになったそうです。教え子である石川信義先生(12期卒)に柔道部を引き継いで定年なされるまで顧問を務められました。教員時代の思い出として忘れられないことは、滋賀県での全国大会に生徒を引率したことだそうです。それはどうしてかと尋ねてみますと、「一回戦で負けて残念だったからな! ハッハッハ…」と間髪をいれずに明るい笑い声が返ってきました。先生にとっては最初の全国大会だったそうです。また、就職の生徒がほとんどだった時代に、自分の教え子が大学へ進学したことは嬉しいことだったとも話してくださいました。

今でも柔道部のOBが尋ねて来て、暮れには30人ほどの宴会になることもあるそうです。「クラブ(部活動)で出会った方々のご縁はありがたいですよ。」と気さくで明るくお話される奥様。そんな奥様から印象深く聞かせていただいたのは「仲人」の話です。先生は、これまでになんとご近所(隣組)で23組もの仲人引き受けられたそうです。しかも一つのカップルも壊れていないというのですから、素晴らしいことですね。それらのご夫婦が小さいお子様連れて挨拶に来ると、何も知らない子どもは先生の頭をなでたり、時にたたいたり…。若夫婦は目を丸くしてビックリするなんてこともよくあるそうです。

ところで、先生は旅行が大好きで、一頃はヨーロッパやシルクロード(天山山脈)、標高4000mの場所にも足を運んだそうです。お部屋にはその時々のお土産品の絵(モンゴルの草原を駆ける馬や砂漠のラクダ)、人形の焼き物、マンダラ等が飾ってありました。トルコやベトナム、ブータンにも訪問されています。奥様いわく、「外務省が許可しない、人が行かないよう

な奥地に行きたがるんですよ。」だそうです。

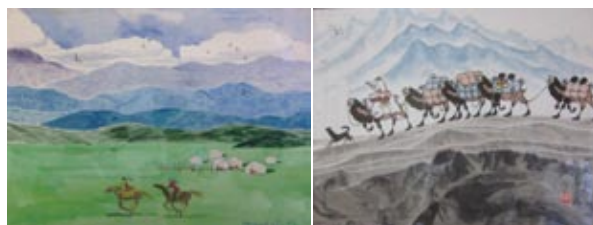
今年90歳となられた先生の最近の楽しみとはいえば、季節の草花を愛でること。庭には四季折々の草花が整然と植えられていました。「平成27年秋開催予定の、同窓会60周年記念式典には必ずご招待しますので、それまで元気にお過ごしください」とご挨拶申し上げたら、「分かった、楽しみに待ってるよ。」と笑顔で握手を求めてくださいました。遠藤先生、奥さま、そして南達支部の皆様、ご協力ありがとうございました。

※先生は俳句もお作りになっています。

書架移し変へて若葉の風いれる (平成三年八月号)

縄文の土器を飾りて年迎ふ (平成四年三月号)

安達太良の雨雲となる春の暮 (平成七年六月号)
俳誌『飛天』より



当時の柔道部(第29期卒業アルバムより)



5月18日(土)、今年80歳になられた国分先生とお会いしました。高校赴任間もない先生が、ブラスバンド部を立ち上げようと燃えていたことや、郡山自衛隊所属軍楽隊の指導を受けて江崎校長にサプライズを仕掛けた話など大変興味深いお話を伺いました。汽車を降りた校長先生が、ホームから郡山駅舎を出られる瞬間に合わせて演奏したそうです。突然のブラスバンド部による出迎えと演奏の素晴らしさに感動した江崎校長は即座に胸ポケットから一万円(当時の高校卒の初任給、現在の13~15万円程度の価値)を出して、「楽器購入に使いなさい」と褒められたことは、今でも忘れられない思い出だそうです。

52年の歴史をもつ本校の吹奏楽部の原点(国分先生の原稿)をご紹介します。

なお、先生は今も高等数学の問題を解いていらっしゃるということで、大変お元気でいらっしゃいました。

ブラスバンド 新設について

部長 国分 欽智



今や各高校におけるブラスバンドの目覚ましい活躍については生徒諸君もよくご承知の事と思います。運動競技での華々しい応援合戦や各種学校行事の先頭に立ってその士気を大いに高め、あるいは高尚な純粋音楽の演奏により自他の情操を深める等々真に顕著なるものがあります。さてわが校においては従来生徒会に音楽鑑賞があり文化部のなかでも可成り活発な活動を続けてきましたが、音楽は元来聴くためのものではなく、自分で演奏する事によりその楽しさを一層増すものであります。私達はそのような生徒諸君からのブラスバンド部新設要望の声をしばしば聞いてきましたが学校の発展とともにその必要はますます強くなってきました。しかし御承知の如く管楽器は大層高価なものでありバンドの編成には多額の費用が入用となりますので、生徒会の力のみではなかなか具体化しませんでした。そこで私達は今年五月より色々と検討をしてきましたが、この度学校当局の御好意により数十万円の購入費を頂いて、二十五人編成のブラスバンド部を設置出来るようになりました事は、生徒諸君とともに真にうれしく感謝に堪えない次第であります。そこで私達関係者(副部長松木先生、運営委員三浦先生、善方先生)はその御期待に応えるべく慎重協議の上、部の指導方針を確立し規約を定めました。次にその要点を述べてみます。

第二条、本ブラスバンド部は生徒の情操教育並びに内外の教育活動の意気高揚と、必要と認めたる諸行事に寄与することをもって目的とする。即ちわが校は工業高校であり卒業生は直ちに実社会において勤務し将来は中堅幹部として活躍するものであります。従って専門の勉学のみにとらわれず円満なる人格、教養の持主であることが必要で、そのため情操の教育は殊の外重要であると思われれます。

第六条、部員は本校生徒をもって構成し教員の推薦のもとに顧問並びに部長の許可を受けるものとする。本ブラスバンド部が上述のような設置の意義を持ち、衆目の中に学校の名譽を担い、厳しい訓練と強固なる団結をもって成立するものである以上、部員はおう盛なる責任感と研究心の所有者でなければなりません。私達はこれらの規約のもとに十月初旬部員の募集を行い、四十二名を最終的に決定しました。そのうち管楽器演奏の経験者二名、他はオルガン、アコーディオン、ハーモニ

カ、笛、ギター、大・小太鼓等々の演奏経験者たちであります。

楽譜は大半の者が読めるようで実際の練習には本校の先生の外、管楽器専門の先生が一週に一、二回程度来校され、指導に当たられることになっております。またその楽器構成は次の通りで括弧内は個数を示します。ピッコロ(一)クラリネット(四)フリュート(二)アルトサクソ(一)テナーサクソ(一)コルネット(二)トランペット(二)バリトン(一)トロンボーン(二)小バス(二)中バス(一)大バス(一)アルト(二)小太鼓(二)大太鼓(一)シンバル(一)合計二十六器。

これらの楽器は品不足のため注文しても一度にはそろわず、十月末には約半数が、十一月末までには大半の楽器が入荷するものと思われれます。しかし私達は全楽器の入手をまたずに十月末より鋭意練習を始めるつもりであります。もちろん部員諸君は初歩の初歩より始めますが、少々の上達で慢心し、練習を怠ったり、往々街に見るたい癡的音楽演奏者のような服装態度をとってはなりません。また技術がなかなか上達しなくても途中で挫折してはなりません。苦しさを感じ動きのつかないとき、その九十%は成功しているものです。ここで総てを放棄するのは真に残念です。大いなる楽しみこそ大いなる困難をとまなうものでありましよう。またバンドは独奏でなく合奏です。独りよがりになったり、自己の存在を誇示しようとしてはいけません。

要するに部員諸君はひとたび希望し選抜された以上、総てにおいて調和のある団体的行動をとると共に、生徒らしい真し純粋な態度をもって真の音楽美を味い、明朗快活なる学園建設にまい進するよう切望します。

さて生徒諸君は日本大学の各高校には既に立派なブラスバンド部があり、その中でも日大二校の演奏は全国的に有名なものである事を御承知と思いますが、私達もこれらの水準に達すべく一生懸命に努力する決心であります。ただ私達は最近のようにマスコミによる多数の名演奏に聴き慣れておると、単に楽器がそろいさえすればだれでも直ぐに立派な演奏をし深い内容を表現出来ると思ひ勝ちであります。これらの演奏の陰には綿々たる伝統と血のにじむ訓練、研究のある事を忘れることは出来ません。私達の前途も多重多難の連続と思ひますが、どうぞ無理解、性急な要望をなされずにじっくりと暖かい気持ちで将来をみて下さるよう御願ひしてやみません。

(昭和36年10月18日記)



あの先生はいま・・・

平成25年5月25日(土) 12:45～13:30
於:校長室 インタビュー:T



生方 光生 先生

①(先生は何歳で本校に赴任されましたか。)

私が赴任したのは昭和29年の夏、26歳の時でしたね。

②(先生の専攻は工業化学ですが、「工業化学」を専攻したきっかけなどありましたか。)

そうですね・・・、それを話すと中学3年までさかのぼらないと・・・(お願いします。)

私が旧制中学の3年時に、理系は兵役徴集が免除されました。そのため、できれば理系と考えていたのです。当時理系といえば、農、理、工、医の4つ。工か医かで迷いましたが、現代のように医がもてはやされる時代ではなかったため、結局「工」を選びました。

その当時工学で有名だったのは日大の工学部と早稲田の工学部でしたね。(なぜ先生は日大を選んだのですか?)駿河台にあったからです。早稲田の工学部はやや田舎にあったので、東京のど真ん中にある工学部(現理工学部)を選びました。(大学での思い出とかは・・・)

大学入試を経て入学を許可されましたが、戦時中のため1学期中は自宅待機を命じられました。その年の8月に終戦を迎え、9月2日に大学の教室には入ったけれど、アメリカの戦闘機が超低空飛行で東京の空を飛び回り、講義される教授の話がほとんど聞こえなかったのを覚えています。(大学後はどのように。)

卒業後は教授の勧めで「三和化学」というところに就職しました。当時プラスチックは最先端の分野だったのですが、入社して1年半くらいで倒産してしまいました。その後、約1年近く就職浪人の時期がありました。そんな中で、大学時代の友人の強い誘いもあり、第二工学部に赴任することになったのです。諸事情により高校ともご縁があり、教壇に立つようになりました。

③(赴任直後の状況はいかがでしたか。)

どんなことでも仕事であれば一生懸命やった。今と同じで、仕事を選んでいる余裕はなかったからね。

④(先生は、赴任した翌年の昭和30年から平成6年までの38年間、スケート部顧問として活躍されましたね・・・。)

当時スケート部は他の高校にもほとんどなかったもので、満州での経験を活かしたのです。(毎年全国大会に出場しておられますが・・・)いやあ、北海道や長野の選手とは比較にならなかったですよ。それと競技の特徴もあり、毎年1月の寒い時期に全国大会が行われるものだから、ちょうどその時期は学校が一番忙しい入試の時期でしょ。そんな時期に大会だからといって不在だった私は、ある意味異端児だったなあ。

⑤(先生の現在の楽しみ【趣味生活】は何かありますか。)

週1回のドライブです。通勤ラッシュが一段落する午前9時に家を出て、午後5時頃に帰宅するというものです。(お車は?)青のアクアです。何といっても燃費がいいからね。四季折々の風景を眺めるのが好きですね。特にこの時期は、新緑の自然が美しいですよ。(どこか行ってみたいところとかありますか。)最近では埼玉の利根川付近まで往復したのだけれど、今後は北陸地方の富山や金沢、そして鳥取や島根にも行ってみたいね。



～おわりに～

卒業生のみなさん、国道以外の道でエコスタートの「青のアクア」を見かけたら、ひょっとすると「生方先生」かもしれませんよ。お話の中で、時折見せるこぼれるような笑顔がとても素敵でした。生方先生、ありがとうございました。



当時のスケート部
活動の一コマ
中央が生方先生



【退職教職員の会総会後の集合写真】毎年5月の第4土曜日には本校のアカシヤ館で定例総会が、また11月にはビューホテルアネックス「舟津」で懇談会が開催されているそうです。5月24日(土)に来校された21名のご退職教職員の方々の元気なお姿と素敵な笑顔撮影させていただきました。次回桜架(おうだ)12号でも懐かしい先生方をご紹介します。お楽しみに・・・。



平成24年度 母校の様子1年間のあゆみ

4月 April		
7日(土) 入学式	19日(木) 日本大学標準学力テスト	
9日(月) 対面式／着任式／始業式	28日(土) 後援会総会・学級懇談会	
10日(火) 校外オリエンテーション(1年、～12日)		
5月 May		
1日(火) 全校集会／生徒総会	21日(月) 第1学期中間試験(～23日)	
14日(月) 授業参観(第1回～16日)		
6月 June		
1日(金) 衣替え／全校集会	28日(火) 第1学期期末試験(～7/1)	
4日(月) 教育実習(～23日)／第1回研究授業(～14日)		
23日(土) 工学部学科説明会(3年生徒・保護者対象)		
7月 July		
10日(火) 校内体育大会	20日(金) 終業式	
14日(土) アカシヤ祭(一般公開)	21日(土) 三者面談開始(全学年、～8/31)	
9月 September		
1日(土) 2学期始業式	27日(木) 第2回授業参観(～28日)	
20日(木) 生徒会役員選挙	29日(土) 校内マラソン大会	
10月 October		
4日(木) 第123回日本大学創立記念日	18日(木) 芸術鑑賞会	
9日(火) 第2学期中間試験(～12日)	24日(水) 文化講演会	
11月 November		
10日(土) 日本大学統一テスト		
15日(木) 修学旅行(～20日)		
12月 December		
4日(火) 第2学期期末試験(～8日)	21日(金) 第2学期終業式／成績会議	
1月 January		
11日(金) 第3学期始業式／服装頭髪指導	19日(土) 大学入試センター試験(～20日)	
15日(火) 特別授業開始(～30日)	22日(火) 推薦入学試験(～23日)	
2月 February		
4日(月) 一般入学試験	16日(土) 予餞会	
12日(火) 第3回研究授業(～15日)	28日(木) 賞状授与式	
3月 March		
1日(金) 第60回卒業証書授与式	19日(火) 第3学期終業式	
2日(土) 第3学期期末試験(～6日)		

平成24年度 卒業生合格状況 平成24年度卒業生総数484名

日本大学	215名	国公立大学	46名	他私立大学	241名
専門学校	55名	就 職	13名		※延べ人数

◆ 日本大学

法	13	芸術	2	工	72	薬	4
文理	23	国際関係	12	歯	1	短期大	5
経済	13	理工	27	松戸歯	1	医学部付属看護専門	2
商	15	生産工	9	生物資源	16		

◆ 国公立大学

東北大学	2	筑波大学	3	東京農工大学	1
千葉大学	1	福島県立医科大学	3	川崎市立看護短大	2
埼玉大学	4	福島大学	6	会津大学	2
会津大短大部	2	ほか			

◆ 私立大学

東京理科大学	2	中央大学	1	青山学院大学	3
明治大学	2	法政大学	5	立命館大学	1
関西学院大学	1	成城大学	2	成蹊大学	2
明治学院大学	5	獨協大学	1	東京農業大学	4
芝浦工業大学	3	東洋大学	8	駒澤大学	2
専修大学	8	北里大学	1	東邦大学	2

ほか

平成24年度行事



入学式



アカシヤ祭



校内マラソン大会



修学旅行



予餞会



卒業式

答辞より

この春60回という節目を迎えた本校の卒業式。前生徒会長の早坂さんの「答辞」をご紹介します。OBのみなさまご自分の卒業式を思い出していただけたら幸いです。

第六十期 卒業生代表
早坂 優



厳しい寒波も過ぎ去り、少しずつ春の息吹が感じられるこの佳日に、卒業する私たちのために多くの方々のご臨席を賜り、このように厳かで晴れやかな卒業式を挙行していただくことに心より感謝いたします。

先ほどは松井弘之校長先生を始め、ご来賓の方々、在校生代表の方からの力強い励ましと温かい饒の言葉を頂戴し、気持ちが奮い立ち、身の引き締まる思いです。

思い起こせば三年前の春、私たちは緊張の中にも期待と不安、多くの感情を抱きながら、この日本大学東北高校高に入学したことが色鮮やかな記憶として脳裏に蘇ります。新入生となった私たちを待っていたのは、経験したことのない規模で行われる学校行事や、中学校とはまるで違う授業・部活動の日々でした。お互いのことを全く知らず、本来の自分が出せずに気を遣いながら話していましたが、それもつかの間でした。入学してすぐに行われた校外オリエンテーションをきっかけにまともな開始からです。そのようにして私達の高校生活が始まりました。他の人に遅れをとるまいとペンを握り、部活動では先輩方からの時には厳しく心温まるご指導を受けながら、同学年の誰よりも抜き出ようと躍起になり、全力で取り組んでいました。そんな時、あの未曾有の大震災を経験しました。恐怖や不安の中、私達を守り愛を注いでくれた両親をはじめ、学校では先生方、そして共に被災をした多くの仲間同士の励まし合いのお陰で一歩一歩前進することができました。

二学年になると少しずつ学校の雰囲気にも慣れ、後輩もでき、勉強や部活動にも一層積極的に取り組み、大忙しの毎日を過ごしていました。特に修学旅行では、日頃とは異なる環境の中で九州の歴史や風土に触れ、様々なことを学ぶことができました。

最上級生となり、それぞれが自分自身の進路と真剣に向き合い、一喜一憂した時期もありました。また学校行事では学年全体が一致団結して取り組み、下級生をリードし、多くの思い出を残すことができました。こうした日々の学校生活の中にはいつも仲間の笑顔がありました。この三年間は私達にとって何ものにも換え難いかけがえのないものになるでしょう。またその間熱くご指導して下さいました先生方、今日までの長い年月を常に見守ってくれた両親、そしてこの学校を介して出会った全ての方へ、卒業まで導いて下さったこと心から感謝します。

本校の建学の精神である「忠恕の心」「自主創造」「真剣力行」と、この三年間で培ったもの全てを、これからの人生に生かし、どんなに辛く困難なことがあっても、つまづくことなく、前を向いてこれから先の未来へ邁進していきます。

最後になりましたが、校長先生を始め、諸先生方のご健勝と、日本大学東北高等学校のさらなる発展を祈念し、卒業生を代表し、もう一度心から感謝の言葉を申し上げ答辞とさせていただきます。本当にありがとうございました。

平成24年度 退職された先生

※敬称略



【国語科】
高橋 朝行
たかはし ともゆき
平成24年4月1日～
(1年間)



【地歴公民科】
山内 康司
やまうち こうじ
平成21年4月1日～
(4年間)



【数学科】
佐藤 佳
さとう けい
平成17年4月1日～
(8年間)



【数学科】
佐藤 秀憲
さとう ひでのり
平成21年4月1日～
(4年間)



【数学科】
五十嵐 淳
いがらし あつし
平成23年4月1日～
(2年間)



【数学科】
加藤 慎一
かとう しんいち
平成24年4月1日～
(1年間)



【理科】
内崎 万里恵
うちざき まりえ
平成24年4月1日～
(1年間)



【理科】
和泉 達典
いずみ たつゆき
平成24年4月1日～
(1年間)



【理科】
土田 良子
つちだ りょうこ
平成24年4月1日～
(1年間)



【英語科】
中島 江里
なかじま えり
平成14年4月1日～
(11年間)



【保健体育科】
鈴木 淳子
すずき じゅんこ
平成22年4月1日～
(3年間)



【図書室】
酒井 幸子
さかい さちこ
平成22年1月8日～
平成24年12月31日
(2年間)

三世代賞

「三世代賞」は、卒業する生徒ご本人・ご父母様・祖父母君様の三世代に亘る母校愛に敬意を表するもので、平成15年度に設けられました。



平成24年度は廣瀬千秋さん(須賀川第二中:写真左)と宗形伶奈さん(ザベリオ中:写真右)の2名が受賞。受賞者には三世代の名前が入った記念の楯と記念品としてデジタルフォトフレームが贈られました。平成23年度までに12名の受賞があり、今回の2名(写真)を合わせると計14名の受賞となっています。



支部だより



須賀川支部総会・懇親会
3月21日(木) ホテルグランシア



県南支部総会・懇親会
7月6日(土) ホテルサンルート白河

南達支部 機械科1組 昭和39年卒 11期生 会長 穂積 保容

振り返ってみますと、平成11年に第1期～3期生を中心として、地区在住者の同窓生35名が「南達会」設立総会を開催し、満場一致で出帆したのが昨日のこのことです。早いもので今年は発足から14年目を迎えます。それまでは身近に同窓生がいても知っているのはごく僅かな人のみで、ほとんど顔を合わせても分からないという状況でしたが、会発足以降は徐々に会員数も増え、現在では1期～48期生まで、計75名の登録数となっています。

私たちは定例総会のほかに、毎年恒例の納涼会も開催しています。去る7月20日(土)「割烹かわはら」で開催された納涼会には22名もの会員が集まってくれました。来賓として母校同窓会から柳沼正人会長と事務局局長も駆けつけてくださり、祝辞をいただきました。

懇親会では校歌斉唱と「母校50年のあゆみ」映像鑑賞により、気分もいよいよ高揚し、在校当時の興味深いさまざまなエピソードや現在の進学率の高さやスポーツ・文化部での後輩たちの活躍等々、話題は豊富でした。1期～48期といえば三世代の年齢差ですが、会場は終始笑顔と笑い声に包まれた至福の時を過ごしました。最後に「この勢いで今年の暑い夏を乗り切っていこう!」と閉会しました。



郡山市役所 技術部アカシャ会

普通科2組 昭和47年卒 19期生
会長 柳沼 和夫



同窓会誌「桜朶」11号の発刊、心よりお祝い申し上げます。

さて、郡山市役所技術部アカシャ会は、日本大学東北高等学校を卒業した技術系職員(土木、建築、機械、電気及び化学)で組織し、会員相互の親睦、情報交換、母校の支援を目的に平成4年に結成いたしました。

郡山市役所における会の結成は、福島県の土木部次長であった同窓生の白石五郎氏から「是非とも同窓生で母校を応援し、職員の仲間意識を高めよう!」とのお話をいただき誕生したものであります。結成時の御挨拶で、福島空港開港に向けた苦労話をユーモアたっぷりに話されたことは、今も忘れることができません。

現在、54名(男子50名、女子4名)の会員を有し、毎年定期総会を開催して会員相互の親睦を強めているところ

です。

近年、市役所では技術職員の採用人数が減少し、同窓生の入庁が少なく残念な思いしておりますので、機会あるごとに市役所受験を促してまいりたいと考えております。また、アカシャ会に事務系職員の参加も集って、支部設立を目指してまいりたいと考えており、会員同士の絆を大切に、同窓生同士が協力しながら、ふるさと郡山市の発展に努力してまいりたいと考えているところであります。

結びになりますが、母校の益々の発展と同窓生の飛躍を祈念し、同窓会誌「桜朶」発刊の寄稿とさせていただきます。



お近くの支部へ連絡をご希望の方は、最終ページのがきまたは、HPの問合せフォームより事務局までご連絡ください。追って最寄りの支部をご紹介させていただきます。

平成25年役員・支部名簿・連絡先・会則変更点については、右記ホームページをご覧ください。 <http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>

10回目のクラス会開催

「もはや戦後ではない」の流行語で始まる神武景気の真っ只中に入学(昭和31年)、その余韻をもって、なんとなく「頑張ればなんとかなりそう」と高揚した気持ちで卒業。あれから53年、昨年10月、節目の10回目のクラス会を開催しました。

会を重ねること10回。その間、恩師松崎全宏先生が他界され、参加者の年齢的なこともあり、最近では14~15名と、ほぼ固定されています。会が、毎回物故者への黙祷で始まり、会員相互の近況報告、そして昔話で夜は更け、翌朝、次回幹事の確認と再会を誓って終了となるのが恒例です。

会の開催は1年おき。10回と長く継続している秘訣は幹事を4ブロック(郡山・須賀川、本宮、関東【相模原】、関東【東京・厚木】)ごとに選出し、持ち回りで担当していることにあります。会員は担当幹事裁量の開催場所と企画内容を楽しみに開催通知を待つのみです。

ところで、我々の入学時の母校の教育環境は創立間もないこともあり、物的には十分とは言えないものでした。しかし、我々にとってのこの3年間は、何ものにも代えがたい人間形成と級友との強い絆づくりの期間だったと思います。避けることの出来ない年齢の問題はありますが、今後も会員の絆の確認と、この会への継続参加を「目標」として続けていきたいと思えます。



日本東北高等学校機械科1組クラス会
平成24年10月19日 於:陽日の郷 あつま館

吹奏楽部OB会の発足について

電気科2組 昭和38年卒 10期生 会長 渡辺 忠義

この度、去る5月18日(土)に初代元部員を中心にして進めて参りました「日大東北高校吹奏楽部OB会」が発足する運びとなりました。去年の六月から準備を進めてまいりましたが、我々初代の部員が卒業してから約半世紀が経ち、元部員の連絡先など探しあてるのに相当の時間を費やし、やっと設立総会を開くことが出来ました。元部員の方々のご協力に感謝を申し上げます。当日の設立総会には初代担当部長の国分欽智先生をはじめ、同窓会長の柳沼正人様、同事務局長の高橋敏行先生に御臨席をいただきました。会場は郡山市の「姑娘飯店」に於いて、午後六時から開催しました。約半世紀ぶりに会う元部員の殆どが名前と顔が一致せず、しばらくしてからやっと昔の思い出がよみがえり、懐かしく若かりし頃を偲んで涙が出そうになりました。会は和やかに進み、設立当時の国分先生の意気込みを綴った文章などもお配りし、CDに入ってた校歌などを懐かしく聞きながら、約二時間の総会もあっという間に時が経ち、別れを惜しみながらの解散となりました。若い元部員たちは二次会の話で、みんなで駅前のほうに流れ、さらにまた一時間半を懐かしい語り合いの時を過ごして、帰路につきました。約50年ぶりの再会はそれまでの時間をすべて消し去った楽しいひと時でした。二年後の再会を目指し、OB会長として色々企画立案をし、母校や会員のため少しでもお役にたてることがあればと微力ながら努めて参ります。

今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



クラス会だより

この度、第2回H21年度卒IIコース文理合同クラス会にご参加いただいた皆様には心より感謝申し上げます。さて、今回の企画に至ったきっかけは二つあります。

まず一つ目に「このような機会がまたあればいいね…」、「第1回目は参加できなかったけど、次があれば是非…」といった感想をいただいたことです。また二つ目として、「先生にも会いたいね!」という生徒側の想いと「生徒たちの元気な顔が見たいよ」といった先生方のご意見を受けて、双方が再開を喜べる機会を提供できたらと考えたからです。開催場所は前回(第1回目)と同じところにしました。というのも、前は成人式の前日ということもあり、皆で成人のお祝いをしたことを懐かしみたいと考えたからです。懐かしい顔ぶれが集う中、和気あいあいと美味しい料理を囲みながら会話を楽しんだ二時間は本当に一瞬のように感じました。

先生方は一次会のみに参加でしたが、二次会以降は私達だけで、より互いの深い話に花を咲かせることができました。私は仕事の都合上途中で帰宅しましたが、残りのメンバーはなんと四次会(?)まで楽しんでくれたようです。みなさん、またお会いしましょう!



平成25年3月9日(土)PM18:00
レストラン「ウイングガーデン」



第1回の様子

- 同窓会会報についての質問・ご意見・ご要望等があれば、下記へご記入の上、ご投函ください。

Blank area for writing questions, comments, and requests.

※本用紙に記入された個人情報(会報・案内等)を送付する際に使用します。今後継続して、事務局からの案内の送付を希望されない方は、下記の☑印を付して返送もしくはホームページよりご連絡ください。

会報・案内の送付を希望しない。



事務局よりお知らせ

《全国大会出場の部・愛好会への応援よろしくお祈いします。》

7/19(金)、全国大会出場を決めた部・愛好会の選手代表者に激励金が贈呈された。出場を決めた部・愛好会は次の通り。陸上競技部、柔道部、体操部、硬式テニス部、ライフル射撃愛好会、自転車競技愛好会の6団体。競技日程等の詳細は「2013未来をつなぐ北部九州総体」参照。
<http://www.2013soutai.jp/venue/index.html>



《平成26年夏発行予定の「桜采(OUDA)12号」の原稿を募集いたします。》

今後も高校時代の思い出「当時をふりかえって」やクラス会等の記事を継続募集いたしますので、事務局までお寄せください。応募要領は次の通りです。ご本人のお名前・卒業年度・科・卒業時担任名・連絡先(住所、電話、FAX番号またはPCメールアドレス)を明記の上ご応募ください

- 1)原稿内容:高校時代のエピソード。
- 2)文字数:400~800字以内。
- 3)締切り:平成26年5月15日(木)到着分まで。
- 4)応募方法:メール、FAX、郵送でもお受けいたします。
- 5)応募先:メールアドレス takahashi.toshiyuki@nihon-u.ac.jp
- 6)応募先:FAX 024-956-8843
- 7)応募先:住所 〒963-1165 福島県郡山市田村町徳定字中河原1番地
 日本大学東北高等学校同窓会事務局 会報誌編集室あて

《同窓会のHP(ホームページ)について》

同窓会のHPでは、「住所変更」や「お問い合わせ」が可能です。

さらに会報誌「桜采OUDA」1号~11号のバックナンバーもご覧いただけます。

編集後記

この春第60期生がOBに仲間入りしました。(卒業生総数33,827名)奇しくも、ネパール、カトマンズエベレスト初登頂から60年という節目の今年、三浦雄一郎氏(80歳)が70歳・75歳に次いで3度目の登頂に成功し、世界最高齢の記録を樹立されました。そのニュースは世界中に希望と勇気を与えるとともに、夢・希望・目標がある限り、人は「生涯現役」だと教えられました。11号の編集に携わり、先生方の若かりし頃や学校創立当時の話をお伺いして、私も元氣とパワーをいただきました

た。その元氣とパワーを全国で活躍される卒業生の皆さまにも、紙面を通じて感じていただければ幸いです。快く寄稿してくださった方々をはじめ、取材に応じてくださった先生方に今一度心より感謝申し上げます。

何よりもお盆前の発行のために力を貸して下さった共栄印刷編集室スタッフの皆さまと廣済堂の皆さまに、この場を借りて厚くお礼申し上げます。(事務局T)

郵便はがき

9 6 3 1 1 9 0



郡山市田村町徳定字中河原 1

日本大学東北高等学校

同窓会事務局 行

差出有効期限
平成27年8月5日迄
です。切手をはらず
にお出ください。

【個人情報の取り扱いについて】

1 ご提供いただいております個人情報は以下の目的で使用いたします。
 同窓会が本来の目的とした活動をする場合、また必要と思われる作業を進行する際など合法的な目的のために活用する場合。(同窓会会報、総会通知、クラス会通知、支部会通知、周年募金・寄付活動・会費徴収の発送宛名及び各種リスト等) 同窓会会員名簿の作成。

上記1の使用に当っては、氏名、フリガナ、郵便番号、現住所、電話番号、勤務先名、勤務先電話番号を利用させていただきます。

2 個人データの第三者提供の制限

ご提供いただいております個人情報の内容は、本人の承諾なしに学校、同窓会関係者以外の第三者に開示、提供することはありません。ただし、以下のような場合は、例外として情報を開示できるものといたします。

法令の規定による場合

ご本人及び公衆の生命、健康、財産等の重大な利益を保護するために必要な場合

3 個人情報管理について

ご提供いただいております個人情報はデータ処理等の業務委託をお願いしております業者において機密保持に万全を尽くすことの確約を得ております。

4 個人情報の開示・訂正・削除について

個人情報は原則として本人に限り、開示・訂正・削除・利用の停止を求めることができます。

個人情報の取扱に関する件で何か申し出がある場合は、同窓会(日本大学東北高等学校同窓会(アカシア会)へ左記のハガキ、もしくは下記ホームページよりご連絡ください。

ハガキでの返信もしくはホームページへの返信のなき場合には、承諾していただけたものとさせていただきます。ご了承いただけますようお願いいたします。

お問い合わせ

日本大学東北高等学校同窓会事務局
 郡山市田村町徳定字中河原 1
<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>



現住所	〒		都道府県
TEL	携帯		
		生年月日	男・女
氏名			
卒業年	※いずれかに○をつけてください。 建設・機械・電気・工業化学 普通・土木・建築		